

## 令和元年度第2回豊田市地域保健審議会議事録

開催日時：令和2年2月4日（火）14：00～15：31

開催場所：豊田市役所東庁舎4階 東43・東44会議室

出席者（敬称略）：渡邊真（会長）、大澤守（副会長）、岩月幸雄、浦野滋行、大橋一之、中田繁美、中出美代、宮澤清人、村瀬和好、渡邊丈眞  
（欠席者）：谷友一郎、長谷川喜代美

（市側出席者）竹内保健部長兼保健所長、兵藤保健部副部長、柴川保健担当専門監、児玉健康危機管理担当専門監、成瀬総務課長、三輪保健衛生課長、長島感染症予防課長、鈴木地域保健課長、塚田子ども家庭課課長、藤田障がい福祉課副課長、河合総務課副課長

### 議事

○渡邊会長

それでは、本日の議題に移ります。報告事項1「今年度の重点取組事業等の進捗について」ですが、全体で8項目がありますので、大きく5つに分けて進めていきます。はじめに項目番号1から2までの説明終了後に、質疑応答を行いたいと思いますので、よろしくをお願いします。まずは、項目番号1「まちぐるみで取り組む心とからだの健康づくりの充実」について事務局から説明をお願いします。

●成瀬総務課長

重点取組事業の項目番号1の「まちぐるみで取り組む心とからだの健康づくりの充実」について説明

○渡邊会長

はい。それでは続きまして、項目番号2「地域特性に応じた地域主体の健康づくりの充実」について説明をお願いいたします。

●鈴木地域保健課長

項目番号2の「地域特性に応じた地域主体の健康づくりの充実」について説明

○渡邊会長

項目番号1と2の説明が終わりましたので、御質問、御意見をよろしくをお願いいたします。どなたか御意見等はございませんか。

はい、中出委員。

○中出委員

項目番号1番の「ベジタブル&トレーニングとよたプラス10」の取組なのですが、一応、若い世代への啓発っていうのも重点になっていて、かなりいろんなところでやられて、実績はすごく上がっているのかなと思うのですが、知名度とか浸透度について、何か調べられたりするのですか。

実はちょっと、うちの大学にも結構、豊田から来ている学生さんがいっぱいいるので、いろいろと聞いてみるのですが、分からんって言ったりとか。うち、小学生だけかもしれないけど、知らないって言う学生が多いので、どの辺りに浸透しているかなっていうのが、うちのちょっと聞いた学生がっていうのもあるかもしれないのですが、ちょっと教えていただけたらと思います。

○渡邊会長  
いかがですか。

●成瀬総務課長

プラス10の取組ということで、幅広く努めていっておるところでございますが、まずをもって、正直申し上げて、やはり、高校生、それから大学生、それから20代の親御さんになる前の世代の方への訴えというか、そう普及については、やはり、低いのかなというふうに思っております。

一番上のところで、啓発シールの配布というふうに書かせていただいておりますけれど、これ、昨年度からの取組ではございますが、働く世代の働き掛けがやっぱり少ないということで、事業所間で御協力をしたところ、昨年度ぐらいからですけど、非常に、いいですよ、協力しますってということで、社内にシール貼って頂いたりとか、PRしていただくということで、ある程度やはり、大学生というところは非常に、正直申し上げて、弱くなっていうのは反省しておるところでございます。

ちょっと、細かい字で申し訳ございません。大学祭での啓発ということで、こちらのほうは、実際には、市内の中京大学さん、それから豊田高等専門学校、それから愛知学泉大学のほうで、私どもだけではなくて、他の感染症対策とかも一緒にPRをさせていただきました。

学生さんの参加もあるのですが、実際には大学付近の住民の方、支援の方、そちらのほうの参加いただいて、そういった方への御紹介というか、PRはできているところでございます。

機能、御指摘のとおり、ほんとに大学生全体というのは難しいなという課題を持って、引き続き取り組んでいきないうふうに思っています。

○中出委員

大学を巻き込むというか、ちょっと離れるかもしれませんが、以前、名古屋市から呼ばれまして、やっぱり若い世代の啓発力ってのも、私がメインでやったのですが、朝食を食べさせようということで、その取組をこちらからやるのではなくて、学生主体でやったほうが良いということで、学生にアンケートを取って、その結果を踏まえてリーフレットを作り、そのリーフレットのキャッチコピーというか、それも公募で学生から選んで、それ以降、リーフレットできたものを名古屋市の「なごや食育広場」があつて、そこにも載っているのですが、大学の取組として、それを名古屋市の大学の入学式で全部に配ったっていうことが昨年、一昨年ぐらいあるんですよ。

なので、やっぱり若い世代って、なかなか上からトップダウン難しいので、若い世代の人たちに動いてもらうような何か仕掛けを作ると、割合とそういうステージ与えられると頑張ってる子たちはいると思うので、大学生では、なかなか動かすのが難しいので、ちょっとやり方を考えるといいかなという気がします。

豊田の大学は幾つかあるので、大学の学生さんたちが動いて、自主的にいうふうな取組になっていくと、ちょっと違うのかなというのをちょっと思いました。

ちょっとごめんなさい。離れたかれもしれない。

○渡邊会長

やられているけど、もう少し工夫をしてということですね。

○中出委員

あってもいいのかなと思います。

○渡邊会長

他にはいかがですか。はい、岩月委員。

○岩月委員

項目2の健康づくり、元気アップ教室のあと、自主グループのほうですけれども、先ほど、報告ありましたように、今、200を越すようなグループが自主グループとして発足して、活動を継続して負っていただける。

私も、健康づくり協議会のヘルスサポートリーダーのほうで、その活動の支援には行かせていただいておりますが、何分に、高齢者のグループということで、年数がたつと、だんだんグループを指導しておられた、運営しておられた方も年を取って、だんだん継続について厳しい状況が見えてくるようになります。

私たちは頼まれて、その活動シーンには入れるのですが、運営の支援とかそこまでは担当の分がないので、地区担当保健師が時々、気を付けて声掛けはしていただいておりますけれども、そういうふうに継続していく中で、年齢を重ねて、だんだん運営が難しくなってきたときに、そこをサポートして、運営をうまく継続できるように、あるいはもう一つは、元気アップ教室から始まって、そのときのメンバーが自主グループ作るわけですが、その後、できれば新しい会員を入れていくような、入っていただけるような仕組みも進めてほしい。

そういう人為的なサポートを何か考えていただくような仕組みがないかなというふうに思うわけですけど。

○渡邊会長

いかがですか。

●鈴木地域保健課長

ありがとうございます。いつも大変お世話になってます。

おっしゃるとおりで、こちらとしても毎年、交流会等も含めながら取組をして、継続してやっていけるような形でサポートはしておりますし、あと、先ほど、おっしゃられた地区保健師もなるべく、その場に行くように努力はしておりますけども、そこら辺も戒めてですね。

あと、もう一つ、新たに入替えですよ。年数がたっていけば年も重ねていくことで、地域によっては新しく入ってくる方もたくさんいるところもあれば、なかなかそのグループだけでずっと持ち上がっていくところもありますので、そこら辺も自主活動をしているグループを保健師のほうでしっかりと把握しながら少し考えていきたいと思っております。

いつもありがとうございます。

○岩月委員

縦割りでいくと全然違う場所になってしまうのですが、市民活動センターのほうに、その市民活動を支援するという、中間支援するような役割を持ったグループもあるというふうに聞いていますけども、ですから、ここは保健で元気アップ教室、その事業ということですが、地域の自主グループは、例えば、グループごと運営しているかっていうような課題がありますので、そういった別の分野の人材も支援に入っていただけるといいのかなという、そんなことを考えておりますので、また、よろしく願いいたします。

●鈴木地域保健課長

何とかやります。

○渡邊会長

分かりました。

せっかく、そういうグループで活動されているので、何とかサポートしてあげてください。

●鈴木地域保健課長

はい、ありがとうございます。

○渡邊会長

他にはよろしいですか。はい。

○大澤会長

すみません。歯科医師会の大澤ですけど。

項目1のところで、やはり、まちぐるみで取り組む健康づくり、その中で、やはり、今の超高齢化社会として、人生100年時代というふうに国の方も言われていまして、その中でやはり、国の危機感を持っているのがやはり、寿命が延びても健康でない、病人が増えたらほんとにいろんな面で困るので、いろんな危機感を持って、これ、基の方針2017から19のところではやはり、この健康寿命について非常に書かれていると思います。

その中で、健康寿命についてはいろんな要素があると思いますけども、その中のひとつとしては、口腔の健康が非常に大きく関わっているということで、2017から19の骨太の方針の中で、口腔の健康についてのところが記載されていますけども、やはり、そんなところで、やはり、この今やっている「8020から9020へ」、それから「いい歯の心得8か条」もう少し健康寿命が延伸できるような、しっかりした口腔の健康づくりに対する制作というか、対策を考えていただきたいなっていうのが一点かなと思います。

それと、あと、今、ここに「8020から9020へ」っていうのは、今、8020というのはお二人に一人が達成されていて、もうほぼ、普通になってきているんですね。

ただ、その普通になってきているんですけど、口腔の達成者の健康度と、それから、そうじゃない人の健康度。それから、達成をして、今後90歳になる人、100歳になる人、どのように変化していくというようなことも行政としては一番の調査をしていかれると、色々な対策が取れるのかなというふうに思いますので、その辺もちょっとお願いをしたいところかなと思います。

報告なので、どこまで言っているのかちょっと分かりませんが、以上です。

●成瀬総務課長

ありがとうございます。

当然のことながら、今のお話にあったとおり、人生100年時代で、「8020から9020へ」数字では9020なのですが、生涯自分の歯で食べていくことができることがイコール口腔の健康どこまで保てるのかということですので、幅広い世代に対して考えていかなきゃいけないということもありますけども、そういった高齢社会に対する対応っていうこと。また、そういった点をもって、次年度以降の事業には当たっていきたいと思います。ありがとうございます。

○渡邊会長

それでは、次に項目番号3から5までについての説明をお願いいたします。

まず、項目番号3の「日常における食品衛生・環境衛生の安全・安心の確保」について、よろしくお願ひします。

●三輪保健衛生課長

項目番号3の(1)から(3)の「日常における食品衛生・環境衛生の安全・安心の確保」の充実」について説明

●長島感染症予防課長

項目番号3の(4)の「豊田市墓地等の経営の許可等に関する条例、規則及び事務処理要領の改正」について説明

○渡邊会長

はい。それでは続きまして、項目番号4「平時からの感染症予防対策及び大規模災害発生時の体制強化」について説明をお願いいたします。

●長島感染症予防課長

重点取組事業の項目番号4の(1)、(2)の「平時からの感染症予防対策及び大規模災害発生時の体制強化」について説明

●成瀬総務課長

重点取組事業の項目番号4の(3)の「災害に備えた体制の充実」について説明

○渡邊会長

はい、ありがとうございました。

次に項目番号5の「ラグビーワールドカップ2019ほか国際的なイベント開催時の健康危機管理」になりますが、報告事項4の「ラグビーワールドカップ2019開催時の医療提供体制について」で詳細な説明をしていただきますので、省略いたします。

それで、一つちょっと私から質問あるのですが、MLVAっていうのは、これは保健所の中で、例えば、他の地区と何かこちらの地区で特別にそういう集団の事例が発生したら保健所の中で調べるようなたぐいのもので、例えば、一般の会員とかそういう人に、例えば、そういう人員でいろいろなそういう症例が出たら、これがどういうものに当たるのかっていうのを検査していただくっていうような、そういうたぐいのものではないわけで、保健所の中だけのことでしょうか、これは。

●三輪保健衛生課長

保健所の方では、現段階では検査体制を整備している状況なので、まだできませんけども、今の現状としましては、0157が出た場合には、国の検査機関の方に株を送りまして、国のほうが解析を進めて、それぞれの各県からいろんな株が集まってくるので、その同一区分であるかを確認し、かつ、同一区分であるかが確認できれば、その株を出した保健所のほうに情報提供して、同一性が高いということで、ひょっとしたら散発的な食中毒ではないかという判断に持っていけるような体制にはなってはおります。

○渡邊会長

分かりました。じゃあ、保健所の中でやられるっていうことの体制強化とって御報告っていうことでよろしいですね。

●三輪保健衛生課長

はい。

○渡邊会長

今まで送っていたのがある程度、自分とこでもある程度できるようになってということですね。

はい、分かりました。

項目番号3から4までの説明が終わりましたので、御意見や御質問をお願いいたします。

じゃあ、岩月委員。

○岩月委員

インフルエンザのワクチン接種についてのスタンスをちょっとお聞きしたいということなのですが、高齢者については、市のほうから接種の補助金が出ているという状況の中で、だから、是非、重症化予防のために接種しなさいよっていう、そういうメッセージが伝わってくるわけですが、幼児だとか小学生なんかは結構、ちょっと流行するとすぐ学級閉鎖になったり、自分の身内なんか聞いてみてもワクチン打ってないよとか。逆に子供がインフルエンザにかかったので、ちょっと子供を見ておいてくれないかみたいな、そんな話が出てくるわけですが、幼児とか小学生辺りに対する接種の勧奨っていうのは、どんなスタンスで。だから、心配だったら打ったほうがいいよっていうのか、是非、打ってくださいよっていうか、そこら辺の保健所としてのスタン

ス、市としてのスタンスというのは、そこはどんなふうに伝わっておるのでしょうか。

○渡邊会長

よろしいですか。

●長島感染症予防課長

まず、高齢者向けの季節インフルエンザの予防接種につきましては、国のPVということで、定期の予防接種に定められておりますので、そういった指示を仰ぎながら勧奨もさせていただいております。

お子さん等に対するインフルエンザ等については、現在、そういった指示がございませんので、補助等をさせていただいてない状況なのですけれども、こちらにつきましては、補助等もやらせていただいておりますので、御希望の方はどうぞということ。

ただ、どうしてもワクチンを打ったら罹らないじゃないかっていう辺りの認識がある方が大変、多ございますので、重症化予防っていうふうには重要ですよっていうような、接種に関する相談等は積極的にというか、常時、対応させていただいておりますが、是非、打ってくださいとか、そういうアクティブな啓発はさせていただいてない状態になります。

○岩月委員

ワクチンの効果についてのどれが正しい情報なのかっていうのも割と、どこへ聞けばほんとに正しい情報が得られるのかみたいなのところも割と難しいところがあって、例えば、高齢者の中でも2月頃にかかる、ひどくなるから年越しまでワクチンの接種を待つていうような意見もあったりするわけですね、実際には。だから、それがどうかっていうようなところについては、なるべく正しい情報の提供、それからワクチンの効果についても、そういうところをよく知らせることが、助成金だけじゃなくて、そういうことが必要ではないのかな。

私自身は子供にとっても、インフルエンザのワクチン接種はしたほうがいいんじゃないのかなというふうに思っていますが、特に私、医学知識があるわけじゃないので、それ以上のことは言えないのですけれども、そこら辺で、保健所としてやっぱり打ったほうがいいですよとか、あるいは、そういう何か親御さんたちが判断できるための指導とかそういうのがあればいいのかなというふうに思ったので聞かせていただいたんです。

●長島感染症予防課長

お子さんたちにお配りしております予防接種が始まる前の段階というか、ちっちゃい新生児の頃というか、予防接種について、全部まとめて現在の知見というか、法的な負担が調べてこれですよっていう知見をまとめた冊子については皆さんにお配りさせていただいております。

その中に、現在、国もこういう状況ですっていうものを含めた内容のものについては皆さん一般的にはお配りしておりますので、それ以上のことについては保健所に、また、お問い合わせくださいということで、随時の情報提供という形で、問い合わせ先や一般的にはもう分かっている内容についてはヒヤリングさせていただいております。

○渡邊会長

ということですね。

なるべく小さいお子さんとかにも少し、予防接種を受けてもらうような勧奨をして頂きたいなという、そういう御意見ですね。

今、やっていることとしては、今、最後に言われたような予防接種のところの全般的なところに少し出ているだけで、そういう積極的なことは特にはやれてないということですけども。

そういうことで、なかなかいろいろ考えがあると思うのですけれども、やっぱり、高齢者には、その制度的にそうなっていますけれども、じゃあ、若年層の人に関してはとということなので、一般的なことでいいから、なるべく保健所というスタンスで出すと、非常にまた、もう少し受けてくれるのが進むのになあという、そういう御意見でよろしいでしょうかね。

●長島感染症予防課長

ありがとうございます。

○村瀬委員

毎日、新型コロナウイルスが、マスコミなんかで、逆に言えば、ちょっとオーバーヒートしたぐらいの感じで流れているのですが、それはそれとして、対応も必要だと思うんですけども、やはりもっとおそろかにはいけないのが、通常の季節性のインフルエンザに対する対応だと思うんですけども。

といいますのは、確か季節性インフルエンザっていうのは、直接の原因とそれから感染の原因を足すと、年間で1万人ぐらいの国内の死者が出ているってとお聞きしている訳なんですけれども、今の時期ですと、ちょうど季節性インフルエンザのピークの時期ですが、新聞なんかでも1月ぐらいになると、去年のインフルエンザの感染者数とか死者数が出たりするのですが、新型コロナウイルスのニュース番組があるために、ほとんどのマスコミがそっちに集中しているものですから、直近で通常の季節性インフルエンザの感染者数とか死者数といったら失礼なんですけれども、もし、お分かりになっていけば、これ、私も気にしているいろんな新聞等見ているんですけども、ほとんど、もう新型コロナウイルスの話で出てこないものですので教えてください。

●長島感染症予防課長

はい。委員がおっしゃられたとおりで、ちょっと持ち合わせてないので申し訳ないのですが、今年も例年どおりアウトブレイクというか、警報の段階は十分超えておまして、先日、愛知県で90幾つの定点観測だったような記憶があるのですが、ちょっとうる覚えですので、また、後ほど正しい数値については御報告させていただきたいと思います。

相変わらずA型のインフルエンザの定点報告は多ございますので、例年どおり流行しております。

○村瀬委員

私の友人の親戚が年末ぐらいに、最初はインフルエンザで発症して、最後はやっぱり高齢なものですから肺炎を併発して亡くなったりしている方もいるのですから、そのこともあってちょっと気になっていたものですから。

○渡邊会長

はい、分かりました。おっしゃるとおりだと思いますね。

インフルエンザも非常に母数が多いので、なかなか話題になっていたりということですけど、もちろん、インフルエンザ、インフルエンザ脳症もありますし、それからまた、インフルエンザによる異常行動ですね、それによって、命を落としてしまうような方の報道もありますので、やはり、忘れてはならないもっと身近な感染症なので、それは先ほど岩月委員もおっしゃられたわけですね。

そういうところにやはり、予防接種という方法はあるので、それで100パーセント防げるわけじゃないのですが、そういうのを少しずつ皆さんに意識してもらうことは非常に大事なことだと思いますので。

それ以上、なかなか保健所のほうとしても特に、よろしいですか。何かコメント等はよろしいですかね。

はい、それでは他には御意見等はございませんか。

はい、それでは議事を進めたいと思います。

次は項目番号6「人と動物の共生社会の推進」について説明をお願いします。

●三輪保健衛生課長

重点取組事業の項目番号6の「人と動物の共生社会の推進」について説明

○渡邊会長

はい、どうもありがとうございました。

それでは、項目番号6の説明が終わりましたので、御意見や御質問お願いいたします。  
どなたかよろしいですか。はい、中出委員。

○中出委員

実績を見ると、殺処分数はかなり減っているんですが、これってこの取組の成果っていうことですか。

●三輪保健衛生課長

この動物愛護センターに入ってくる動物っていうのは、飼えなくなったりとか、捕獲された動物だとか、そういった動物がいるのですけども、そういったまず、入り口を閉めていかなければいけないので、この飼い方教室だとか、適正な手術についての啓発を行って、更に、引き取った動物に関しては譲渡ということをしなければいけないので、これを積極的に動物の治療を行いながら、専門的なトレーニングを受けて、飼える人に渡すという巡がうまく回っているのかなっていうところで、徐々に殺処分数も減ってきてはいる状況です。

○中出委員

ありがとうございます。

○渡邊会長

はい、他にはいかがですか。よろしいですか。

はい、それでは続きまして、項目番号7「子育て家庭の不安や負担の軽減」について説明をお願いいたします。

●塚田子ども家庭課課長

重点取組事業の項目番号7の「子育て家庭の不安や負担の軽減」について、説明

○渡邊会長

はい、ありがとうございました。

項目番号7の説明が終わりしたので、御意見や御質問等はいかがでしょうか。  
渡邊委員、何かございますか。

○渡邊委員

じゃあ、一つだけ「ひとり親家庭への支援」で、資格取得などのキャリアアップって書かれているけど、具体的にはこういうのはどういうものが用意されているんですか。

●塚田子ども家庭課課長

三つ用意してございまして、一番ちょっとハードルが高いのですと、例えば、保育士ですとか、看護師ですとか、こういった国家資格取得するために、学校に通って資格取得するところの金銭的な支援っていうのが一点で。

もう一つちょっとグレードの下がったところだと、通信教育等々、ヘルパーの資格ですとか、そういった資格を取得するための講座受講費用ですね。こういったものの支援。

あと、三つ目が若い時期に妊娠とかしていられて、高校を卒業してみえない御家庭もございまして、そういった高卒の資格を取るために支援ですね。こういったところを支援しているところでございます。

○渡邊会長

はい、よろしいですか。

○渡邊委員  
ありがとう。

○渡邊会長  
他にはいかがですか。よろしいですか。  
はい。それでは、続きまして、項目番号8「障がい者が地域社会で共生できる環境づくり」について説明をお願いいたします。

●藤田障がい福祉課副課長  
重点取組の項目番号8「障がい者が地域社会で共生できる環境づくり」について説明

○渡邊会長  
ありがとうございました。ただいま項目番号8の説明終わりましたので、御意見や御質問をお願いいたします。  
大橋委員、何かございますか。

○大橋委員  
はい。

○渡邊会長  
よろしいですか。

○大橋委員  
はい。

○渡邊会長  
はい。結構ですかね。  
中田委員よろしければ。

○中田委員  
先ほどからもそうですけれども、実績は御覧いただいたとおりですと言われますけど、それが高いのか低いのかよく分かりませんので、ある程度、こんな傾向ということまで教えていただくと、そういう説明いただくと有り難いなということと、障がい福祉はあんまり専門ではないですが、特に、(4)の中の「②精神障がい者の家族支援」で、家族会と連携した相談窓口の開設と書いていますが、これは、多分、あけぼの会のことを言われていると思うのですが、今後、あの委託事業をどうしてってほしいなっていう希望ありますか。

●藤田障がい福祉課副課長  
あけぼの会に対してですか。

○中田委員  
そうです。

●藤田障がい福祉課副課長  
まずは今年度から始めた委託事業なりますけども、ちょっと担当の方とあけぼの会さんとのいろいろなやり取りの中で、中々やっぱりその会としても基本的にはその親の会等になりますから、ちょっと言い方が悪いかもしれませんが、まだまだ会としていろんな部分で自立できないと言

いますか、そういったことが聞いておりますので、もちろん、その市の職員がサポートしながらという形の中で、今、現状やっておりますけども、そういった自立できるような会のほうになってもらいたいというふうに期待しております。

○中出委員

是非、支援をいただければと思います。

●藤田障がい福祉副課長

はい。

○渡邊会長

他にはよろしいですか。

それでは1から8までの重点取組のほうが終了しましたけども、全体を通して、今の御発言の何かないですかね、宮澤委員、いかがですか。何かございますか。

○宮澤委員。

この「障がい者の地域社会の共生できる環境づくり」この障がい者の就労、働く場所、そういうのについての何かどういう方向、利点があるかっていう部分は、ちょっと分かりやすいといいますが。

○渡邊会長

いかがですか、何か。

●藤田障がい福祉副課長

今年度のこれ、重点取組項目になりますので、冒頭申し上げたように、(1)の計画というのが来年度、策定をしております。

この障がい者の計画というのが、6年計画でございまして、この計画の中に、この障がい者の就労という部分においても、今後、どういった施策でやっていくかっていうようなことを明記していきながら、施策として展開をしていく、そんなふうに考えております。

○渡邊会長

はい、他にはよろしいですか。

浦野委員、何かよろしいですか。

○浦野委員

はい。そうですね。今、薬局としまして、先ほども出ていましたけれど、マスクと消毒剤ですね。こちら、ほんとに不足しております、うちでさえ、日に二、三件は問い合わせがあるということ。

確かに新型コロナウイルスのこともありますがけれども、このきちんとした対応のPRですかね。そこまで過敏になる必要がないということをきちんと発信していただかないと、ほんとに今、パニック状態になっておりますので、実際問題、死者数は、中国やフィリピンとかで一人出たようですが、日本では死者は出てないはずでして、そういったことをきちんと伝えていただきたい。

マスコミがすごく騒いでいるものですから、そういったところへ踊らされてしまっていることあるのですが、そういったところもきちんと伝えていただきたいというのもありますので。

それと、あと、子ども家庭課さんですかね。いつも、妊娠授乳の方でお世話になっておまして、一応、また、来年度もパパママ教室のところで、妊娠授乳の方に薬の安全性だとか、そういったものをまた、お話しさせていただいておりますので、やはり、すごく妊娠授乳の奥さんというのにはほんとに薬を飲んでいいのかっていうのがすごく心配をされておりますので、そういったところできちんと薬剤師会としてもお話をさせていただきたいと思っておりますので、安心して飲める

んだよっていうことを伝えていきます。

また、よろしくお願ひします。

●塚田子ども家庭課長

こちらこそよろしくお願ひします。

○渡邊会長

はい、他にはよろしいですか。

○渡邊委員

はい、災害のところで、その応急救護所の開設訓練等でその地域について、割と小地域を想定してみえると思うのですが、災害時によって、洪水でも地震でも、多分、既存の動線が切られるという状況になったときには、地域住民の、多分、人的資源がかなり活躍されると思うのですけれども。

こういった応急救護所等の災害的な体制の作り方と、その地域の町ぐるみの健康増進、健康づくりの自主グループとはこうリンクしたような何か工夫のようなものはされているのかどうかちょっと聞こえてこないなと思って。

その災害時の体制がどういうふうに、まず、作られようとしとるのが理解しにくいなど。

多分、非常によくマッチするんじゃないかなと思うんですけど、ヘルサポさんを育てていくような中で、支援していく中で、こういうものも含まれていてもいいんじゃないかなっていう気はするのですが、どうなんですかね。

●柴川保健担当専門監

基本的には災害が起こったときには、自助、共助、公序ってような考え方で、まずは自主防災会というのが自治区全部ありますので、そういったところがほんとに第一義的には、やって行くと思います。そういったときに、やはり、区長さんですとか自治区長さんですね。そういう方々がやはり中心となっていられるのかなっていうふうに思います。

そういった地域での基本的な取組がある中で、こちらのほうは今回のこういった訓練については応急救護所の訓練ということですので、本当はその地域の自主防災会も含めて、一緒に訓練するといいんですが、まだまだ、うちのスタッフのスキルが十分ではないものですから、保健師と関係の医師会、薬剤師会の先生方と一緒に具体的な動線の確認ですとか、ほんとにトリアージ訓練というのをやっているんですけど、本来ならば、そういった地域の自主防災会とこちらのトリアージ訓練は一緒に行えるといいかなというふうには思っています。

あと、やはり急性期の大体72時間、三日以内というふうになっておりまして、応急救護所というのは概ね三日以内のけがの対応ってことにはなりますが、三日を過ぎると亜急性期という形になりますので、そうなりますと、今度は担当保健師が中心となって、各避難所等を巡回して回っていきます。

また、医師会の先生方を含めて巡回という形になっていきますので、そういったときには地域の区長さんですとか、いろんなコミュニティーの会長さんですとか、いろいろなきらきらウエルネス地域推進事業で培ったそういった人脈を通して、一緒に活動していくっていう形に動いていくように、今は計画をしております。

また、そういったところの訓練というのはできていないのですけども、一応、計画としてはそういう形にしております。

○渡邊会長

はい。よろしいですか。

●竹内保健所長

地区担当を導入したときのコンセプトの一つに、災害のときにも役に立つということがありま

すが、中々、今、専門監申し上げましたとおり、そこまで訓練等はできていないということですので、今後、先生の御意見参考にしていきたいと思います。

○渡邊会長

はい

●長島感染症予防課長

すみません。先ほど項目4番で、村瀬委員からお尋ねの季節性インフルエンザについてですけれども、全数報告にはございませんので、全患者数というのは把握できないのですが、現在はどういいますか、第4週1月20日から26日までの全国状況ですと、推定患者数が65.4万人ってことで、定点当たり18という状況で、それなりに流行しているような状況になります。

以上です。

○村瀬委員

詳しくは、よろしいですよ。インフルエンザで発症して入院して、肺炎を併発して亡くなったときには、肺炎のほうが死因という形になって、インフルエンザのほうではカウントされてないというふうに聞いているものですから、死者数1万人っていうのは、直接、間接、両方が含まれた数なんです。

○渡邊会長

それは難しいところですね、どっち側を取るかっていうことは。

きっかけとして、結果的に合併症のほうの死因でということにあるかと思いますが、まあ、よろしいですか。

昨年に比べてはかなり流行しましたが、今の現時点では昨年ほどではないということですね、比べますとね。今、多分、それでいいと思うんですけどね。

それでは、他にはよろしいですかね。

じゃあ、次にまた報告事項、進めていきたいと思いますが、よろしいですか。

はい、それでは次に報告事項2「豊田市藤岡保健センターの廃止について」事務局から説明をお願いします。

●成瀬総務課長

報告事項2「豊田市藤岡保健センターの廃止について」説明

○渡邊会長

はい、ただいまの御説明につきましては、御意見や御質問等ありますか。よろしいですかね。機能も他のところで代替してやってくることでもよろしいかと思います。

それでは続きまして、報告事項3「豊田市募地等の経営の許可等に関する条例、規則の見直し方針」について、事務局から説明をお願いいたします。

●長島感染症予防課長

報告事項3「豊田市募地等の経営の許可等に関する条例、規則の見直し方針」について説明

○渡邊会長

はい。説明が終わりましたので、御意見や御質問等お願いいたします。

よろしいですね。この変更があったというふうに、国のほうも変わっていくということで。

はい、じゃあ、次の議題移ります。

報告事項4「ラグビーワールドカップ2019開催時の医療提供体制について」事務局から説明をお願いいたします。

●河合総務課副課長

報告事項4「ラグビーワールドカップ2019開催時の医療提供体制について」説明

○渡邊会長

はい、ありがとうございました。

ただいまの報告につきまして、御質問や御意見はいかがでしょうか。よろしいですか。

非常にうまく行ってよかったですね、ほんとに。

よい経験になって、また、これが東京オリンピックのほうにもいかされてくるっていうことで、非常によろしいんじゃないかと思えますけども、特に御意見等はないですかね。

はい、じゃあ、この議案も終わりたいと思います。

続きまして、報告事項5「令和元年台風19号被災地派遣報告」について、事務局から説明お願いいたします。

●深尾感染症予防課担当長

報告事項5「令和元年台風19号被災地派遣報告」について説明

○渡邊会長

はい、ありがとうございました。

ただいまの報告につきまして、御質問、御意見等はよろしいでしょうか。

いいですか。何か豊田にも、ろうくみきょうさくっていうのがあるのですか。あるんですよ。何かそれが最近、行くところでその話があるのですけども。

この派遣のときには、そういう土木の関係の方も行かれたんですかね、そういう災害の。そういうこと聞いてないですか。

●兵頭保健副部長

今回は。

○渡邊会長

ちょっと本題とずれるんですけど。

●成瀬総務課長

災害の直近のときには行っておりませんが、その後の復興というか、復旧の支援ということで、来月の3月31日までなのですが、都市整備部の職員ですが、公共建築の復旧ということで、1名職員が行っておりますが、来年度も引き続きというふうに、人事の方から聞いております。

○渡邊会長

はい、分かりました。他にはよろしいですかね。

はい、じゃあ、どうもお疲れさまでした。

続きまして、報告事項6「豊田市動物愛護ふるさと寄附金制度の開始について」事務局から説明をお願いいたします。

●三輪保健衛生課長

報告事項6「豊田市動物愛護ふるさと寄附金制度の開始について」説明

○渡邊会長

何かすごく集まったんですね。これ、3か月でこんなに実績っていうことで。

ただいまの説明につきまして、御質問、御意見等はよろしいですか。

はい、結構ですね。

少しでも殺処分が減るような方向にいったらいいかと思えます。

それでは、続きまして、報告事項7「精神障がい者地域支援協議会の設置について」事務局から説明をお願いいたします。

●藤田障がい福祉副課長

報告事項7「精神障がい者地域支援協議会の設置について」説明

○渡邊会長

はい、ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、御質問、御意見等はいかがでしょうか。

○浦野委員

1点。

○渡邊会長

はい、どうぞ。

○浦野委員

先ほど、ちょっと歯科医師会の大澤先生が答えられたのですが、協議体制の中に、一応、協議会の中に、医師会さんはあるのですが、薬剤師会と歯科医師会が入ってないのですけれども、その他の中に入っているってということなんですか。

●藤田障がい福祉副課長

今、現状、入ってない状況でございます。

○浦野委員

入ってなくていいってことですかね。

我々も一応、医療従事者として障がい者の方とも関わりはあるものですから、もし、あれでしたら、そこに入れていただければというところもありますので。

●藤田障がい福祉副課長

はい、分かりました。

●竹内保健所長

検討させていただきます。

○渡邊会長

他にはいかがですか。他にはよろしいですか。

○中出委員

すみません。協議会ということではないのですが、結構、障がいのある方ってお食事の問題、結構大変で、なかなかうまく栄養がとれないとか、お菓子食べ過ぎちゃって太るとか、いろんな問題があって、それって口腔のことともつながってくると思うので、是非ともそういった栄養的なサポートもできるようなところも入っているといいかなと思う。

結構、現場の声としては、食事のサポートってすごく困るっていうことを訴えられる方が結構多いので、職員さんとか。

そういうのを是非とも考えていただくと。このシステムの構成の中には保健、予防とかっていうことがあるので、ここに入ってくる、関わりのあるところはちょっと入ってもいいのかなっていうふうには思います。

○渡邊会長

はい、よろしいですか。

じゃあ、このことも検討ということでもいいですか。

●竹内保健所長

ちょっと具体的には、また、すみません。

先生の御意見参考にさせていただきます。

○中出委員

どこが協議会っていうことはちょっと分からないので、ただ、現場の声としては結構、お食事の問題について、大変で、どうしていいか分からないっていうことよく聞くので、何かサポートする人たちがいてもいいのかなっていうこと思っただけです。

○渡邊会長

はい。他にはよろしいですか。

それでは、続きまして、追加の議題ということで、報告事項8「豊田市内で新型コロナウイルス感染症疑い患者が発生した場合の対応について」事務局からお願いいたします。

●長島感染症予防課長

報告事項8「豊田市内で新型コロナウイルス感染症疑い患者が発生した場合の対応について」説明

○渡邊会長

はい、新型コロナウイルス感染症に対応した医療体制ですけど、電話相談窓口が開設されて、ここに相談件数が出ているのですけども、まだ、これとは別に、帰国者接触者相談センターってものをまた、設置する予定であるということだね。

この窓口がそのままそっちに移行するわけではないっていうことですね。

●長島感染症予防課長

違います。

○渡邊会長

それから、「帰国者、接触者外来」というのは、どんなふうに想定されていますか。

●長島感染症予防課長

どんなふうにと言いますと。

○渡邊会長

どこに、ということも含めて。

●長島感染症予防課長

それも含めて、まだ検討中です。

○渡邊会長

まだ、決まったわけじゃないですね。

上旬予定ということですね。分かりました。

それでは、ただいまのことにつきまして、御質問、御意見等はいかがですか。

○浦野委員

1点、ちょっと。

○渡邊会長

はい、浦野委員。

○浦野委員

先ほどの被災地のあれではないのですけれども、もし、今、災害が起きて避難所等設置した場合に、やはり、その消毒だとかそういったものが必要なると思うのですが、インフルエンザだとかノロウイルスに対して、そういったものを備蓄としては保健所としてはきちんとしてあるのでしょうか。

●長島感染症予防課長

消毒という表現がちょっと広いのであれなんです、新型コロナウイルスと新型インフルエンザ等の必要な資材については十分備蓄があります。

それから、避難所ってということだと、防疫と言いますか、環境消毒的なものについては委託先がございまして、そういったところをお願いして、ストックというか、ランニングストックっていうような形で、協力をいただいている状況です。

今、世間を騒がしてます一般的なサージカルマスクとかそういったものについては、備蓄させていただいてない状況になります。

○浦野委員

分かりました。

○渡邊会長

今のお話は、災害が起きたときの避難所での一般的な準備はちゃんとやってあるよという、そういう御説明というふうに理解してよろしいですね。

ただ、今、質問としてはその特別な消毒とかそちらのほうでということなんで。でも、それはそれ以上のことはなかなか準備ができないってことでよろしいですか。

取りあえず、そういう体制はちゃんと取ってあるよということですね。

よろしいですか。でも、今のことに多少関連して、何か、例えば、マスクですね。例えば、なくなっちゃっているとかそういうことに関して、別に保健所とは直接は関係ないんですけど、市とかそういうところで流通の。

●長島感染症予防課長

国のほうからは流通についての増産体制をお願いしているということであるとか、あおった報道に乗ってっていうような対応については冷静な対応っていうのは、通知で出ておりますので、関係機関さんのほうには流させていただいている状況になります。

○渡邊会長

はい、分かりました。

他にはよろしいですか。ただいまの新型コロナウイルス感染症に対応した医療体制について、よろしいですか。

はい、ありがとうございました。それでは、議事進行を事務局のほうにお返しします。

●河合総務課副課長

はい、それでは渡邊会長、ここまでの御進行ありがとうございました。

本日、御用意した内容は以上でございますけれども、最後、委員の皆様方からその他の御意見等ございましたらお受けしようと思えます。

何かございますでしょうか。よろしかったでしょうか。

それでは、以上で終了となりますが、本日、大変時間が押しております。

私どもの進行管理ができておらず、誠に申し訳ございませんでした。

最後に一点だけ御連絡を差し上げます。次回の本審議会の開催予定でございますけれども、詳細はまだ、未定でございますが、現在、今年7月から8月頃の開催を検討いたしております。

また、正式に決まりましたら御連絡差し上げますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和元年度第2回豊田市地域保健審議会を終了とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました

— 以上 —

令和2年2月4日

議事録署名人

㊟

議事録署名人

㊟